

開
けー

鐘
じよう

KĒ-JOU

沖縄県立芸術大学広報誌「開鐘」第20号



沖縄県立芸術大学
OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF ARTS



突撃インタビュー！！！

私たち音楽文化専攻の

稻福ほづみと渋谷奈央が

比嘉教授の生の声を聞きに行ってきました！

(以下 ほづみ、奈央)



首里当蔵キャンパス 音楽学部研究室

比嘉聰教授が 人間国宝に認定されました。

2017年、音楽学部琉球芸能専攻の比嘉聰現客員教授が、国の重要無形文化財「組踊音楽太鼓」保持者（人間国宝）に認定されました。組踊音楽太鼓での認定は、2003年の（故）島袋光史さんに続く2人目です。身近に感じていた現役教員が、文化材保護法に基づく認定を受けたことに、教職員、学生共々驚きと喜びを隠せません。そこで、学生代表にインタビューしてもらいました。

企画 小西潤子・山内昌也 音楽学部
撮影 笹原浩造 美術工芸学部

一 太鼓との出逢い 一

(比嘉)

現在沖縄県立芸術大学がある場所（首里城跡町）には、琉球大学がありました。

そこに通っていた私は、いつも学内から聞こえてくる三線の音が気になりました。

当時は、古典（琉球古典音楽）と民謡の区別なん全く分からず…

で、郷土芸能クラブに入部したのです。毎年クラブの発表会が

あるのですが、「器楽合奏」に感銘を受けたのです。

器楽合奏というのは、太鼓が中心となつて、三線や箏曲、笛、胡弓の奏者が伴奏する音楽様式のことです。

太鼓の人数は、多いときは数十人にもなるのですよ。

(奈央)

器楽合奏という言葉から、太鼓を中心の音楽のイメージが浮かびません。

(比嘉)

琉球芸能の世界では、当たり前に使っている言葉です。

しかし、いつ頃から使用されるようになったかは不明です。

(はずみ)

先生は、いつから本格的に太鼓に打ち込まれたのですか？

(比嘉)

2年生になってからです。

(故)島袋光史（しまぶくろみつふみ）先生の道場に入門しました。

毎回のお稽古が楽しくて、稽古時間は、

30分から40分程度。

本当はもっと習いたかったのですが、

限られたお部屋のスペースに太鼓を置くと4〜5名ほどしか座れなくて。気づいたら次の門下生が待っていました。

(はずみ)

初めての舞台経験は？

7〜8年が経過してからです。

(比嘉)

「万歳歎討」（まんざいてきうち）*1の地謡で、

(奈央)

太鼓を担当しました。でも、緊張のあまり、どのように打つていたか記憶に残っていませんよ（笑）。

私は、吹奏楽でトランペットを演奏してきましたが、2年生で副科実技（歌三線）を受講して、初めて三線を手にしました。祖母の弾く三線を聞く機会は多かつたのですけど、独特の音色には親しみがあるし好きですが、学んで改めて三線の難しさがわかりました。イメージした通りの高さの音が、なかなか出ないです。

一 太鼓のテクニック 一

(比嘉)

太鼓には、「ドレミ」のような音高はありません。

しかし、太鼓にも様々な「音の種類」があります。音の強弱だけではなくて、その瞬間にどのように表現するか。情景描写もあれば、イメージを作る場面もある。

スピーチ感が求められることもあります。

そのため、様々なテクニックを身につけなければならない。

組踊『熱心鐘入』（しゅうしんかねいり）＊2では、

締太鼓のみで表現する場面があります。

クライマックスを盛り上げるには、技術と表現力が必要です。

私も、奈央さんと同じく三線を学び始めたのですが、特に拍子の取り方にはびっくりしました。今では、その虜になっています（笑）。

太鼓では、拍子を「当てる」という言い方をします。拍子の取り方はとても重要で、リズムの基本は拍子と裏（四分音符と八分音符）で構成されます。

舞踊や組踊の地謡の場合は、立ち方の動きを見てその瞬間に合わせた打ち方をしなければなりません。基本の型はありますが、それだけでは地謡はできません。

瞬時に察知する能力と感性を磨いていきます。演田によつては、太鼓が無いと完成しない作品もあります。

(比嘉)

一伝承一

長年太鼓と向き合つてきて、

組踊音楽太鼓保持者（人間国宝）として認定されたことは大変嬉しかつたです。と同時に、

師匠である（故）島袋光史先生に続いて二人目であるこの責任は重いと感じています。

演奏して楽しむだけでなく、「どう演奏するか」を常に考えるようになりました。

私は、師匠の技術を盗んで学んできました。

これからは、学生のみなさんが、私の演奏を盗んで学ぶことになりますね。

更に、自身の演奏技術を高めていかないと、と思つています。

一大学に求めるもの一

(奈央)

沖縄県立芸術大学音楽学部では、

トランペットと太鼓のように

西洋と東洋の音楽の両方が学べます。

違いはあっても、「音」を

追究する点では同じだと思います。

(ほづみ)

私は打楽器を演奏しますが、世界観は異なつても

共通する部分は多くあるように思います。

(比嘉)

音を「感じる」と「が演奏する上でとても大事です。

(ほづみ)

私は沖縄文化コースの第1期生です。

舞台を制作するにあたり、

「見せたいもの」と「見たいもの」をどう

融合させ伝えるか。

様々なことを学んでいきたいと思います。

(比嘉)

沖縄文化コースが誕生したことから、

演奏者だけでなく演奏者と対話のできる

演出家・舞台制作者が育つてほしいと願います。

この首里の地にある大学から、

あらゆる方向に広がつて行けるところですね。

教員や在学生だけでなく、

卒業生にも協力をいただき、

あらゆる手段で大学を盛り上げてほしいですね。

(奈央・ほづみ)

今日は、インタビューの最中に太鼓の演奏も聞けて、太鼓を身近に感じられる貴重な機会となりました。

ありがとうございました！

*1 田里朝直（たさとしちょうちよく）作。高平良御鎖（たかでいらうぎし）に闇討ちされた父のかたきを討つために兄弟が立ち向かつていくストーリー

一。演技を抜粹した舞踊「高平良（万歳」も有名。

*2 玉城朝薰（たまぐすくちよづく）作。1719年、初の組踊作品として上演。切ない恋愛のストーリー。2019年には、玉城朝薰組踊誕生300年を迎える。

特集2 — ひと 山城 知佳子

受賞

山城知佳子氏（本学大学院環境造形専修修了）の映像作品がアジアン・アート・アワード・第一回大賞に選ばれ、国際的な活躍が期待される日本の現代アーティストとして、シンガポール、アートフェア東京での受賞作品展示の機会が提供されました。



© Nagare Satoshi

のかもしれない）声を聞き目覚めてゆく。かつて自分たちと同じように生きていた人々の痕跡を感じ、同時に「種」を受け取ることで未然の生を共有し「詩」を唄い未来につなげていく。未来に向かって種を飛ばすというシーンは物語のなかで描きたい大切なキーワードの一つだ。

他にも、本来は目に見えない過去の記憶や歴史が知覚されてゆく過程が描かれているが、音はそれを表現する上で非常に重要な要素であった。拍手が出す音は、パンと手を叩いた瞬間に空気に振動を起こし手元を離れ、移動した振動が私たちの耳に届いて音として認識される。手元から耳に届く間、音が空を漂っている時間があるのだが、このように世界には過去に誰かによって発せられた声や何かが起った痕跡の振動が漂つたまま残っていて、ずっと誰かに認知されるのを待っているのではないか、私はそういう残響を感じことがあるし、漂流しているサウンドを表現することはまるで映像が肉体化するようにならざるを得ない。つまり、音の振動のほんの少しの瞬間に夢のように立ち現れたリアルな実体の人々の「痕跡」そのものだと思つてみることもできる。

「土の人」は日本で生まれた物語で、非常に身近な私たち一人一人を描いた物語だと捉えて良い。過去の記憶について、自分の経験していない怒りや悲しみについて、経験した人々と同じように感じることは容易ではなくとても難しい。だが、私たちの社会がどのような流れで時代を歩み、どのような構造を持ち、どんな課題があり、このままだと未来にどんな犠牲を強いられてしまうのか、目を開いて世界を必死に捉えようとしている。今後も私なりに過去と現在を途切れさせず、そして作品を観た後に鑑賞者に対話が生まれるような作品をつくり続けていきたい。

山城 知佳子



※1 「土の人」 ©山城知佳子



※2 「土の人」 ©山城知佳子

沖縄・台湾芸術大学交流展2017

沖縄・台湾芸術大学交流展2017

報告

美術工芸学部では、昨年10月27日から11月5日までの期間、附属図書・芸術資料館において「沖縄・台湾芸術大学交流展2017」を開催致しました。本展覧会は、平成28年度に本学と国立台湾芸術大学との学術交流協定締結を記念し行われたもので、開催趣旨は、両学の美術工芸分野の実技系教員相互の教育研究内容の理解を深め、芸術及び教育研究交流の充実をはかることです。また、それを基盤に学生の交換留学プログラムを強化することで、沖縄と台湾の文化的な絆をいっそう深めることも目的としています。

会期初日には、国立台湾芸術大学から美術学院長劉柏

村先生、設計學院長許杏容先生、雕塑學系賴永興先生の

3先生を招聘し、午前にオープニングセレモニーを執り行い、午後にはトークセッション形式で国立台湾芸術大学の教育方針、大学施設などの紹介、さらに教員の研究内容を本学教員や学生へご教示頂きました。展覧会期の10日間は、芸大祭期間と重なり多くの方々が来館され、両大学教員の作品群76点を堪能して頂き、盛況のうちに閉会いたしました。

今年度10月には、台湾芸術大学でも作品展の開催が決定し、本学からも教員の派遣を予定しています。今後も両大学の教員や学生間の友好関係がより一層深まることが期待されます。



オープニング式典 ホール入口



図書芸術資料館 第1展示室



基調講演 多目的ルーム



第二展示室

本大学と南城市 こらくりアーツ & 伝統芸能祭



平成27年3月11日に本学と南城市が包括的連携協定を締結し、間もなく着地点となる3年が経過しようとしています。

芸術の力で地域課題を解決していくこととを目的に4つの事業を開催してきましたが、この中で2つの事業について紹介させて頂くとともに、本事業の意義をお伝えさせて頂きたいと思います。

まず、美術・芸学部と市観光商工課が連携して実施した「南城市こらくりアーツ展覧会 in 安座真」では、南城市知念字安座真のムラヤー（公民館）を拠点として彫刻や絵画など7部門のワークショップ及び作品展示を行いました。

● 南城市伝統芸能祭 シュガーホール



◆ ワークショップ風景 公民館 ムラヤー



ワークショップでは本学の学生が安座真の魅力的な資源をテーマとした作品づくりのプログラムを構築し、地元の子どもたちに体験してもらいました。また、海岸通り沿いの緑地帯に彫刻作品を展示し、地域の人々や訪れた人々に楽しんでもらいました。

次に 音楽学部とシュガーホールが連携して実施した「南城市伝統芸能祭」では、事前に南市の地域に伝わる民俗芸能について調査を行い、その成果をもとに舞台作品を創作し、シュガーホールにおいて公演を行いました。第一部では地域の民俗芸能を披露し、第二部では琉球開びやく神話を今に伝える内容の舞踊劇を上演して南城市的文化資源を活用した新たな観光・まちづくりコンテンツを創出しました。

前者は、地域のムラヤー活動、観光閑散期における安座真の新たなコンテンツ開発という課題解決を図るために、後者は、民俗芸能継承者と県立芸大生・卒業生の交流と双方向での発展を目的に実施されました。

地域に住む人々は「自分たちの地域には何もない」と認識していることが多いのですが、今回のように芸術という視点を交えながら地域資源の見せ方を考えていくことで地域の人々に気づきをもたらし、誇りが醸成され、行動が起こり、資源の保存・活用につながっていきます。本協定は芸術による地域住民と地域資源の橋渡し役を担いながら持続可能なまちづくりに資するモチルケースとして双方の発展に寄与していくことでしょう。

琉 球 芸 能 公 演

琉球芸能専攻では、実技と理論を学び、学内演奏会、琉球芸能定期公演をはじめ、平和祈念堂奉納の舞、首里城公園中秋の宴、移動大学での鑑賞会等学内外での公演をしつつ、技と心を磨いています。

第28回琉球芸能定期公演

平成29年10月14日（土）、まちづくりNPOコザ町社中のご協力をいただきて、沖縄市民会館大ホールで開催しました。定期公演は日頃の学習成果を広く社会へ公開する公演です。沖縄市での開催により、中・北部からの多くの皆さんに足を運んでいただきました。

<演目>

古典音楽齊唱：「作田節」「稻まづん節」「早作田節」

古典音楽独奏・独唱「六段管撲」「仲風箇」「仲間節」

舞踊「女こてい節」「秋のおどり」「金細工」

組踊「万歳歎討」

創作舞踊「アッチャマー」



定期公演 沖縄市民会館

沖縄福建友好県省締結20周年記念事業

平成29年11月9日（木）～13日（月）の日程で、沖縄県知事ら沖縄県代表団の一員として学長をはじめ15名が参加し、福州市での式典等で琉球芸能を披露しました。姉妹校の福建師範大学への表敬訪問、近隣大学生との交流会、福建大劇院での福建歌舞劇団との合同公演により、交流を深めました。

<演目>

「初穂」

「かせかけ」

「摩（ゼイ）」

「棹舞（カンマイ）」

「加那よー・泊高橋」

「世栄太鼓」



沖縄福建友好県省締結20周年記念事業 福建大劇院

第10回 移動大学 in 大宜味 琉球芸能公演

平成29年12月10日（日）、大宜味村環境改善センターにて琉球芸能公演を行いました。琉球舞踊7演目を上演し、エンディングでは力チャーシーで参加者と心温まる交流をしました。学生にとっても、地域について深く知る貴重な機会となりました。

<演目>

「かぎやで風」

「本貫花」

「秋の踊り」

「花風」

「加那よー・泊高橋」

「高平良万歳」

「黒島口説」



移動大学 大宜味村 農業環境改善センターホール

洋 樂 演 奏 会

洋楽定期公演は音楽学部の西洋音楽を専攻する学生の1年間の教育研究成果の発表とともに日頃の活動を広く地域社会へ紹介する目的で毎年開催される最も重要な公演の一つです。

第28回洋楽定期公演

平成29年10月27日(金)、奏楽堂にてピアノコース企画による洋楽定期公演を行い、1台4手から2台8手の作品や、合唱との共演等により、ピアノの音色の幅広さやアンサンブル力を発揮しました。

<プログラム>

C.ドビュッシー:《小組曲》より第2曲<行列>

L.v.ベートーヴェン:《エグモント》序曲

G.ホルスト:組曲《惑星》より第4曲<木星>

J.ブラームス:《ドイツ・レクイエム》より第4曲

<あなたの居ますところはなんと麗しいのでしょうか>

S.ラフマニノフ:《6つの小品》よりII.スケルツォIV.スラヴァ

M.グリンカ:歌劇《ルスランとリュドミラ》序曲

近藤春恵:2台ピアノ4手のための《Mabui III》

M.ラヴェル:舞踏詩《ラ・ヴァルス》



洋楽定期公演会より

第28回オーケストラ定期演奏会

平成30年1月21日(日)、南城市文化センター シュガーホールにて第23回オーケストラ定期演奏会を開催いたしました。尾高忠明氏の指揮のもと会場全体が熱気に包まれ、大変素晴らしい公演となりました。

<プログラム>

B.プリテン:青少年のための管弦楽入門 - パーセルの主題による
変奏曲とフーガ 作品34

E.グリーグ:ピアノ協奏曲 イ短調 作品16

J.シベリウス:交響曲第2番 ニ長調 作品43



オーケストラ定期演奏会より

第21回室内楽定期演奏会

平成30年2月17日(土)、沖縄県立芸術大学奏楽堂にて第21回室内楽定期演奏会を開催いたしました。学内の演奏試験によって選抜された6団体が登場し、息のあったアンサンブルを披露しました。

<プログラム>

W.A.モーツアルト:フルート四重奏曲 第1番 ニ長調 K.285

F.シューベルト:八重奏曲 ヘ長調 D803

O.ペーメ:金管六重奏曲 変ホ短調 作品30

C.D.ツィマー:メガス ヘマリンバルティットのためのヘ

C.ライネッケ:クラリネット、ホルンとピアノのためのトリオ 口長調 作品274

S.ラフマニノフ:悲しみの三重奏曲 第2番 ニ短調 作品9



室内楽定期演奏会より

国際瀧富士美術賞はパブリックアートに興味のある国内外の学生が応募する奨学金です。私は、工芸作品も空間を作り出すパブリックアートとしての役割があると考へており、特に今学んでいる漆芸作品でその可能性を知つてもらいたいと応募しました。今回、本学の漆芸分野では初の学外公募展の受賞となり、より漆芸界を盛り上がっていくきっかけになればと思います。これからこの奨学金を利用して、大学院に進学し表現の追究を行い、自分にしか出せない漆の表情を見つけていきたいです。

島袋香子 工芸専攻漆芸分野



国際瀧富士美術賞 優秀賞

活躍する学生受賞者の声



翁長瞳 彫刻専修

幼い頃からみていた沖縄で大賞を頂けたことは喜びと同時に驚きと不安がこみ上げてきました。大学代表としてもありますが沖縄という土地で私自身が作家としてどうやって生きていかを考えさせられました。今年度は私自身卒業という節目の年です。いつも以上に制作が重荷で苦しく感じる時もあります。しかし振り返って悔いがないようにやりきれることを最後まで学ぶ姿勢を崩さないようにやりきりたいです。

絵画専攻 小林 美沙（日本画）第17回佐藤太清賞公募美術展日本画の部入選

白砂 真也 絵画専修（日本画）第6回 Artist Group - 風 - 入選

上野 裕二郎（油画）アートムーブコンクール 2017 ダイム賞、世界絵画大賞展入選

彫刻専攻 趙 英鍵（博士課程）第91回国展 彫刻部 国画賞、第69回沖縄彫刻部門 沖縄賞

吉田 香世 第69回沖縄彫刻部門 浦添市長賞、山本恭平 第69回沖縄彫刻部門 うるま市長賞

平敷 健 第92回国展 彫刻部 国画賞、第70回沖縄彫刻部門 うるま市長賞

翁長 瞳 第70回沖縄彫刻部門 沖縄賞、丹羽 正淳 第69回沖縄彫刻部門 教育出版社賞

デザイン専攻 安里 貴志 六本木デザイナーズフラッグコンテスト 2018 入選、JAGDA 学生グランプリ 2017 入選

新垣 麗美 ASIAGRAPH 第3部門最優秀賞、子どもアニメーションフェスティバル 審査員特別賞

長濱 萌菜 第4回全国合板 1枚作品コンペ 審査員特別賞



沖芸には

学生生活の中で県内外でのコンクールで受賞できたのは、厳しくご指導して下さった先生方をはじめとし、入学当初からの目標である素晴らしい卒業生や先輩、支えあいながら頑張ってきた同期、後輩たち、そしてどんな時でも応援してくれる家族のおかげだと 思います。また、県立芸大の魅力ある少人数制を生かした年一度の演奏ホールでの学内演奏会は、大きな舞台に慣れるためにはとても重要な経験です。知らない土地での演奏はとても緊張しましたが、たくさんの経験をすることができて本当に良かったです。

糸村 葵 声楽専攻



素晴らしい

原石が

あつまって

います！

昨年12月10日の地区予選を経て、今年1月20日に上野学園大学石橋メモリアルホールにて本選会に参 加してきました。緊張感が漂う中、素晴らしいホールで演奏することができ、確かに充実した時間を過ごせました。

大学では専攻の隔たりなく色々な楽器の人とアンサンブルする機会に恵まれ楽しみながら充実した学校生活を過ごしています。

渡部由佳（音楽表現専攻 管打楽コース ホルン）日本クラシック音楽コンクール ホルン部門 大学生の部 第5位
 泉川なな（大学院 演奏芸術専攻 管弦打楽専修 クラリネット）第24回おきでんシュガーホール新人オーディション 入選
 真壁美貴（器楽専攻ピアノコース）第50回新報音楽コンクール ピアノ部門 一般の部 第3位
 屋嘉比奈々（声楽専攻）第50回新報音楽コンクール 声楽部門 一般の部 第2位
 山城カナ（大学院 演奏芸術専攻 打楽器）第1回全日本打楽器連盟 新人オーディション 第2位

オキナワ To イタリア

留学生と帰国生

対談

いろんな文化のチャンプルーだったので驚きました。

今回は、そのうちイタリアのミラノ・ビコッカ大学に2016年3月から1年間留学した本学学生の知念由美（由）が、同大学からの留学生のアンドレア（ア）、マルティーナ（マ）に沖縄と本学の魅力について尋ねました。

（ア）沖縄には独特なアートがあつて驚いたこと。それから、芸大では琉球の伝統文化に情熱を持って勉強している学生がいることに感動しました。

（由）この姉妹校留学についてどう思いますか？

（ア）沖縄で勉強したこと、友達ができたことはとてもいい経験になつたし、芸大で出会つた優しい先生や教授たちとも出合えて良かつたです。

（マ）私にも大きな転機になりました。

日本の習慣を学ぶ事は難しかつたけど、母国語ではない言葉を学ぶ事が大きな経験になりました。

（由）留学は良い経験になりました。

留学中には、以前この留学制度で出会つた友達が助けてくれたこともあり、彼らにはとても感謝しています。

（由）沖縄に来て驚いたことはありますか？

（ア）沖縄の伝統的な文化や歴史について興味があつたためです。

（マ）前にも日本には来たことがあつたけど沖縄は想像していた日本ではなくて、



（左から）マルティーナ、由美、アンドレア

沖縄の個性の美と人類普遍の美を追究する精神のもと、沖縄県立芸術大学ではアジア太平洋各地をはじめ、ヨーロッパの姉妹校とも交流協定を締結しています。



島袋 霞 アーティスト

在学中は、いろいろ悩むもあつて半年休学しました。けつして優秀な学生ではなかつたです。ただ、卒業後音楽を継続したい思いだけは変らず、人材育成会社に入社してからも休日は演奏活動を続けてきました。転職後も、nachy、比嘉栄昌（BEGIN）と共に演するなど、前職で身についたことを生かし音楽活動の場を増やしてきました。現在は、ギター＆ヴァイオリン・ユニット「ジユエ」にて、ヴァイオリンを担当しています。夫とギタースクールを共同経営しつつ、ヴァイオリン、ピアノの指導もしています。

「人は変れる」をモットーに、より豊かな人生を生きられるよう人の交流の大切さも伝えるようにしています。ハンドメイド・アクセサリー制作等、作家活動もしています。後輩のみなさんには、自ら活動の場を広げること、夢を諦めないことの大切さなどを伝えたいです。

大学時代は「ユニットを組み、Tシャツデザイン、カレンダー制作等を請け負っていました。企業インターンシップに参加したリプロダクト「デザイナー」と交流を持ったりして、いろいろな人々と関わるながら「やりたい」を形にしていました。卒業後は、県内広告会社に「デザイナー職」で入社し、複数商品のヒットを手がけました。そのときに制作したCDジャケットがアートディレクター・森本千絵氏（goen。主宰）の目に留まり、上京して氏の片腕として活躍することになりました。そして、沖縄県立芸術大学在学中からの夢だった「起業」がかなって、昨年末独立しました。今後は、自身の腕で「一流の仕事」を請け負いたいです。後輩のみなさんは、「今を全力で生きれば道が開く。分岐点では『楽な方』ではなく、『やりたい方』を選択して欲しい」と言いたいですね。

波平昌志

デザイナー



沖縄県立芸術大学音楽学部（作曲コース）平成20年3月卒業
ミックコーポレーションで営業管理、人材育成担当後、飲食店に転職し、
スタッフ管理、サービス業全般、企画等を行う。結婚を機に独立し、
新城ギタースクール運営、ヴァイオリン・ピアノ講師。

沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科（デザイン専修）平成23年3月修了
株式会社ミニトマ代表 株式会社エマエンタープライズを経て、
2015年goen。入社。
2017年12月フリーランスとして独立。

2018年度 地域貢献事業セレクト

本学では研究と教育の成果を社会に還元し、地域の方々の教養と文化の向上に寄与することをめざし、さまざまな地域貢献事業を実施しております

琉球舞踊デモンストレーション 比嘉いずみ准教授 ハワイ大学ヒロ校



フラの体験授業を終えて しまくとうば実践教育視察団 ハワイ大学ヒロ校



おきげい教養講座「曜変天目の謎をさぐる」森達也教授（考古学）首里当蔵キャンパス

A screenshot of the National Diet Library's digital collection website. The top navigation bar includes links for 'Search', 'Collection', 'About', 'Help', and 'Logout'. Below this, there are two main sections: 'Collection' on the left and 'Search' on the right. The 'Collection' section displays a grid of thumbnail images representing various historical documents. The 'Search' section contains a search form with fields for 'Search term', 'Search type', and 'Search method', along with a large search button.

2018年度演奏会・展示会等スケジュール

美術工芸学部

4月 20日 (金) ~ 24日 (火)	個展「器展」 朱ハンセム (デザイン専攻 卒)
6月 6日 (水) ~ 10日 (日)	芸術資料館所蔵絵画作品 (絵画専攻)
6月 21日 (木) ~ 25日 (月)	個展「窓」 高濱晴佳 (工芸専修 染)
7月 19日 (木) ~ 24日 (火)	卒制試作展示と油画家生前期報告展 (絵画専攻)
8月 1日 (水) ~ 5日 (日)	学部生展 (彫刻専攻)
8月 22日 (水) ~ 26日 (日)	個展 上野裕二郎 (絵画専攻)
8月 31日 (金) ~ 9月 4日 (火)	グループ展「繋ぐ・結ぶ」 高嶺瑞貴 (工芸専攻)
	個展「性聖流転」岡内天馬 (絵画専攻)
	二人展「KOKO ついつい」古波津京華 (デザイン専攻)
9月 13日 (木) ~ 17日 (日)	二人展「空蝉」仲宗根未来 (絵画専攻)
	個展「たてつてん」立津千里 (デザイン専攻)
	個展「大山勝司 ceramics exhibition」大山勝司 (工芸専攻 陶 卒)
	グループ展「紙展 (仮)」稻福彩 (デザイン専攻 卒)
9月 22日 (土) ~ 26日 (水)	ドローイングコミュニケーション (絵画専攻)

* いずれも附属図書・芸術資料館 2F

音楽学部

6月 17日 (日) 18:00 ~	第3回 モーツアルト レクイエム コンサート 平和祈念堂
10月 13日 (土) 14:00 ~	琉球芸能定期公演 本学奏楽堂ホール
11月 17日 (土) 18:30 ~	洋楽定期公演 本学奏楽堂ホール
2019年1月 12日 (土) 15:00 ~	オーケストラ定期演奏会 南城市文化センターシュガーホール
2019年2月 16日 (土) 19:00 ~	室内楽定期演奏会 本学奏楽堂ホール

* おきげい出前コンサートシリーズ 毎月第1火曜日 12:30 ~ 12:50 沖縄県庁 1階ロビー
* 首里城琉球古典音楽演奏会 每月開催 首里城公園 首里杜館前ひろば

附属研究所 文化講座

4月 11日 (水) ~ 7月 18日 (水)	「琉球・沖縄の技術史」
	毎週水曜 18:30 ~ 20:00 首里金城キャンパス 附属研究所 3F 小講堂
5月 7日 (月) ~ 7月 9日 (月)	「古文書を読もう。」
	毎週月曜 18:30 ~ 20:00 首里金城キャンパス 附属研究所 2F AV 講義室

* その他、しまくとうば 講演会（前期1回・後期1回）を実施予定

附属図書・芸術資料館 特別企画展

10月下旬～11月上旬 柳悦孝・柳悦州氏寄贈のアジア各地の織物を紹介 附属図書・芸術資料館 2F

◆ 各講座の開催日時一部は予定です。最新情報は本学ホームページをごらんください。



開鐘 (KE-JOU)

開鐘とは、明け六つの開静鐘の優雅な音に
たとえられた三線の尊称です。

沖縄県立芸術大学も開鐘のように
遙か彼方まで鳴り響き、
世界に向かって飛躍する拠点となることを願い、
広報誌を「開鐘」と名付けました。

沖縄県立芸術大学 広報委員会

2018年5月15日発行

